

Boys, be ambitious!

あらたな一歩を踏み出そう!

2022 秋号 vol.33

甲府一高通信

REIWA

R4 No.2

FIRST STEP

Kofu First High School



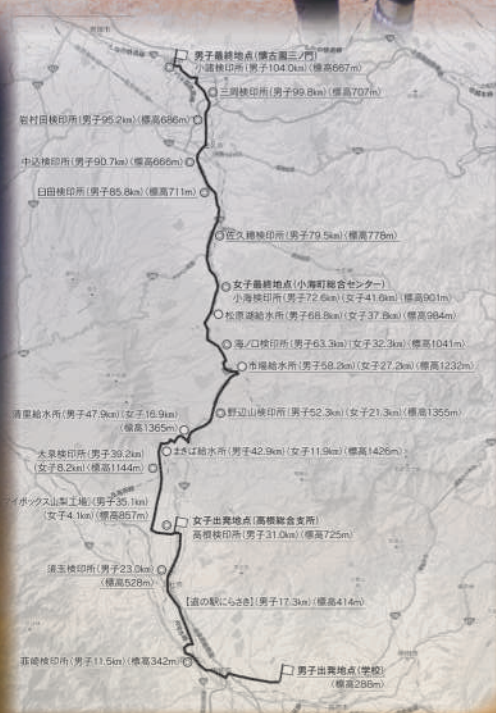
完走してもしなくても、
この行事は人の心に強く干渉してくる。
なんとやかましい行事なのか。
なんと素晴らしい行事だろうか。
リタイア者が入るテントの中でヒーターに
暖まりながらうずくまっていた。
その時自然に出た涙のしょっぱかったこと、
私は忘れない。

2年男子

甲府第一高等学校

強行遠足特集

～令和4年10月1日(土)・2日(日)実施 第94回強行遠足 感想文より～



強行遠足を乗り越えられれば、きっとこの先もうまくいく。
変わることができる。だから必ず小海まで行くんだ。

2年女子



本当につらく、もう諦めようと思った瞬間が何度も訪れたが、そのたびに歯を食いしばりゴールまで歩くことができた。ゴールテープを切った瞬間に涙があふれ、40キロ歩き切った達成感と嬉しさに感極まった。

3年 女子



いくら歩いても目の前に見えてくるのは登り坂だけで、先の見えない不安を抱えながら痛くなった足の裏で踏ん張り、友達と励まし合いながら進むことができた。

1年 女子



完走できたのは、仲間がいたからだ。二人で、協力者の方には必ず明るく挨拶をしよう決め、最後までその約束を守り抜いた。協力者の方や、先生方からの励ましの一言が、私たちを奮い立たせてくれた。

2年 女子



真夜中の検印所で、吹奏楽部の卒業生が演奏する応援歌「希望の光」は、足に痛みを感じ、さらに続く果てしない距離に愕然とし、絶望すら感じていた心に希望を与え、涙が出るほど嬉しく、一高生でよかったと思わせる瞬間だった。



3年 男子



夜中に友達とはぐれてしまい、山道を一人で走った。暗くて怖く、足も痛くてくじけそうになったが、上を見上げると満点の星空が広がっており、心の支えとなった。とにかく誰かに会いたいという一心で、一生懸命走った。検印所や横断歩道で立っている協力者の方に会えると、自然と笑顔になった。普段の生活も自分一人だけではない、必ず誰かが関わっていて、支え合っていることを実感することができた。

2年 男子



完走者である父から、強行遠足の何たるかを散々聞かされ、アドバイスも受け、準備万端で臨んだ。実際のそれは、想像をはるかに超えていた。完走して手に入れたのは、りんごごブライド。104キロ歩いたには随分だなと思ったけれど、清々しくもあった。身体はとっくに限界を超えていた。心も崩壊寸前だった。でも最後の最後に「完走するんだ」という思いだけは手放さなかった。いや、手放せなかった。

1年 男子



白田検印所からは、足が痛くて、つらくて、しんどくて、もう辞めたくて、検印所や道中で何度も涙を流した。でも、そのたびに、自分を応援してくれる人たち、先生方、保護者の方々、そして自分の心と向き合って、前に進み続けることができた。

3年 男子



負けず嫌いで、スイッチが入ると普段では出ないような力を出せる。そんな新しい自分を知ることができました。強行遠足で完走しても、何かの資格が得られたり、目に見える技術が身につくわけではありません。でも、楽しかった、頑張った、つらかった思い出として長く心に残り、我慢強さなど精神的に成長することができると思います。

1年 女子

歩く

前へ。一步、その先へ。

山梨県立甲府第一高等学校

〒400-0007 山梨県甲府市美咲2-13-44 TEL:055-253-3525 FAX:055-253-3527 URL <http://www.first.kai.ed.jp/>

